

# 世界旅打ち気分

●第63回・アメリカの競馬場2場

須田鷹雄



写真1) 観覧車がお祭りムードを盛り上げる  
フレズノ競馬場



写真2) 岩っぽく装飾された払い戻し表示



写真3) ローンスターパークではこの通路を  
通って本馬場入場する

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

この連載では対象とする競馬場の「在庫」が限られてきており、特にアメリカでキャラクターのある競馬場が少なくなっている。以前は一度に複数の競馬場を扱う場合、なにか統一テーマにもとづいていたのだが、今回は特に共通項のない競馬場を2つご紹介させていただきたい。ともに筆者が昨年秋に訪問した競馬場である。

ひとつはカリフォルニア州のフレズノ競馬場。サンフランシスコから車で3時間ほど行ったところにある競馬場だ。通年開催の競馬場ではなく、いわゆるフェア競馬の競馬場である。

フェア競馬については本連載でもいくつご紹介したことがあるが、改めてご説明したい。

アメリカの州や郡には、年に一度開催される「フェア」というお祭りのようなものがある。移動遊園地が来て子供の人気を集めるほか、飲食をはじめとする各種屋台が出る。他のイベントはフェアによって異なるが、地元の人たちが作った手工芸品や絵画の品評会が行われたり、地元企業が自社の製品をアピールするブースなどもよく見られる。

私が勝手に「フェアあるある」だと思っているのが、ジャグジーの販売ブースがあること。日本の住宅には絶対入らないような巨大なジャグジーが売られている一角を、フェアではよく見る。

もうひとつよく見かけるのは家畜の品評会で、その土地で飼われていることの多い家畜が集められ、賞が与えられる。農業高校の生徒たちがそれに参加し、優勝して感激の涙を流したりもする。

そんなフェア（日本語では共進会と訳されることが多い）にはかつて、競馬開催が付随することが多かった。かつて競馬は娯楽の王様だったのだろう。年に一度だけその土地で競馬を楽しめるチャンスがフェアだったのである。

ところが近年では馬券の売り上げが減り、開催コストのほうが増えるので競馬を放棄するフェアも出てきた。カリフォルニアでいうとベイメドウズやフェアプレックスはそもそも競馬場のコース自体がなくなってしまったし、ストックトンにはコースそのものはあるが、車のダートトラックに改装されてしまった。競馬を止めた頃のフェア主催者がインタビューに答えている記事を見

読んだのだが、競馬末期の赤字ぶりにはもう辛抱できなかった、と怒りさえ感じさせる内容だった。

そんな事情なので、フレズノに行く前は果たして競馬が盛り上がりつつあるのか、心配だった。しかし23年現在でいうと、フレズノのフェア競馬はまだそれなりに盛り上がりつついて安心した。

そもそも、スタンドが立派である。同じカリフォルニアのファンデイルあたりと比べると3倍くらいのサイズがあるし、そこに一定の入場客が入っている。1階は無料、2階は有料の指定席やボックスシートなのだが、有料部分もそれなりに売れていた。フェア期間を通じてボックスシートを買っている。つまりはフェア期間に何度も来場している家族もいるようだった。

コースの内側には観覧車があり、フェア競馬らしさを演出している。移動遊園地と競馬が全く別な場所に設置されているフェアも多いが、この競馬場ではお祭り競馬らしい風景を楽しむことができる。

年に一度の開催なのに、競馬場を管理する人たちがしっかりと仕事をしている様子もうかがえた。写

真を載せたように、オッズや払戻金を表示する電光掲示板は、岩のような装飾をほどこされている。もちろん本物の岩ではなく発泡スチロールかなにかの張りぼてなのだろうが、お祭り競馬を演出しようという意志が伝わってきて嬉しくなる。

スタンド内部には売店やバーもたくさんある。なにを食べるか悩んだ末、筆者が選んだのは「セクレタリアトグリル」という売店。その「BBQブルドポークサンドイッチ」というものを買ってみた。煮込んだ豚肉と炒めた野菜がパンに挟まれたもので、おいしいことはいしのだが値段は13ドル。MとLがあるジュース類のLを頼むとそれが7ドルなので、合わせて3000円ほどになってしまふ。アメリカのインフレと円安は本当に恐ろしい。

それでもまあ、入場者が減って食べ物はいよばくれたハンバーガーかホットドッグだけ、ということになっていく競馬場も多い中で、年に2週ほどの開催なのにちゃんとした食べ物売られているだけでよしとしなければならぬだろう。

カリフォルニアは北部に通年開

催の競馬場が無くなるうとしており、南部もロスアラミトスが競馬主催者と施設オーナーで揉めたりと不穏な日々が続いているが、ロスアラミトスに方が一のことがあったらここで通年開催してもいいのでは、と思うくらい立派な競馬場だった。フェアそのものの規模が大きいが、プレザントンとは、まだしばらくフェア競馬の伝統を繋いでいくてくれるだろう。

今回もうひとつご紹介するのは、テキサス州のローンスターパーク競馬場。04年にフリーダーズカップを開催した競馬場として有名だ。

ローンスターパークは時期によってサブレッドの開催とクォーターホースの開催があり、筆者が行ったときはクォーターホースの開催だった。さすがBCをやった競馬場と思わせる立派なスタンドで、駐車場の広さもかなりのものだが、クォーターの開催はやはりそこまで盛り上がるわけではないようで、客入りはそこそこだった。重賞日などはもう少し入るのかもしれない。

一階のファンエリアにはいまちな、ピザを売る売店くらいしかなく、クォーターホースの名馬タッシ

ユフォーキャッシュの名を冠したバーも店員が留守にしていた。ギフトショップもあるが、品ぞろえはいまひとつ。考えてみると全場にターフイッシュアップがある日本はたいしたもの、アメリカであれば対抗できるのはサンタアナやルイドソウダンスなど数場だけだろう。

盛り上がりはそこそこの開催だったが、ハコはとにかく立派だし、座る場所などはふんだんにある。2つのファンエリアの間にあるガラス張りの通路を通じて出走馬が本馬場に向かったり、馬を近くに感じるチャンスもある。

ただこの競馬場に行くには、レンタカー必須となる。最寄り駅からでも車で15分くらい。UBERを呼べば来てくれるとは思いますが、ナイター開催（ナイターの場合もナイターの場合もある）だと帰りがなにかと怖い。それ以前に慣れない土地で鉄道を使うことも少し怖い。競馬場の近くを発着するバス等は無いようだし、あつたとしても結局は怖い。

競馬場のホームページを見ても公共交通機関の案内はなく、FAQにも駐車場の話だけ。やはりレンタカーで行くしかないだろう。